

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成30年12月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771601974		
法人名	社会福祉法人こぼと会		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府吹田市山田東2丁目31-5		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	平成31年1月17日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1278番地の2
訪問調査日	平成30年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○家庭的な雰囲気の中で、心と心が通い合うケアをめざし「たとえ物忘れがあっても身体が不自由になっても、人として尊重され、その人らしい暮らしが保障されるホームでありたい」をたんぽぽの運営理念とし、家庭的な雰囲気の中で、プライバシー・プライベートを大切にしながら、ホームの主人公である入居者の暮らしをお手伝いします。

【運営理念の具体化】

- ・入居者を生活の主体者として尊重し、その人らしい暮らしの実現に向けて援助を行います。
- ・地域の人々に支えられ、自由に出入りできるよう開放的なホーム運営を行います。
- ・入居者・家族・職員・地域住民の声を大切にした運営を行います。
- ・地域高齢者の暮らしの問題と向き合い、安心できるまちづくりを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

企業理念を基に、事業所の運営理念が具現化するために「介護・看護のチェックポイント」を活用し、認知症という病気を理解し行動制限がなく人権を守り、利用者が中心で楽しく暮らすことができるような支援に取り組んでいる。

地域住民やボランティアが主となる「100歳体操」や「カフェ」の場所を提供したり、地域の行事や小中学校との交流を持つなど地域の一員として関わりを持っている。事業所が開催する「長月会」には家族会や地域住民、山田高校吹奏楽部の訪問演奏会など総勢160名ほどの参加があり、毎年大きな行事となっている。また、敷地内の畑では、近隣住民や職員が作ったジャガイモなど様々な野菜を収穫時に、同法人の保育園児が参加し利用者との交流の場となっている。

食事は厨房で調理し、季節の食材を取入れたり、庭で収穫した野菜を用いることもある。利用者の希望に沿った食事や行事食の提供をしたり、ミキサー食の見た目や食感にも工夫を施し食事が楽しめるように取り組んでいる。春のピクニックや紅葉ドライブなどの季節の外出や、天気の良い日は散歩をしている。トイレでの排泄を大事にしており、オムツが外せるように様々な工夫を行っている。

看取りについては、事業所の指針を利用者や家族に説明し、意向に沿ったケアが行えるように援助内容の見直しや医療従事者と連携を図り、看取り介護を行っている。

吹田市の地域の福祉避難所となっており、食料品や水は3日分で50食を備蓄しており、プロパンガス使用の発電機やヒーター・ライトなども用意し災害に備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、ホームの理念がつけられている。ホーム理念の具体化として『介護・看護のチェックポイント』が作成されている。チェックポイントについては、各部署の会議・学習会等でその都度、振り返りを行っている。	事業所の運営理念とそれに基づく運営方針を定め、フロアに掲示し、パンフレットに掲載している。こうした理念や方針を具現化するため、項目ごとに「介護・看護のチェックポイント」を作り、各職員が所持している。入職時の研修で使用するだけでなく、日常の会議や学習会には全員がチェックポイントを持参し、学習や、内容の見直しを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ホームの行事に近隣の高等学校に訪問頂いたりしている。また、ボランティアを定期的に受け入れ、地域との交流を図っている。	町会には加入していないが、地元の夏祭りや役割を与えられたり、消防団に参加するなど、地域行事に積極的に参加している。山一地区の盆踊りに利用者とともに模擬店を出店し、小学校の運動会の見学や職場体験として地元の中学生の受け入れを行っている。また、地域の福祉避難所としての指定を受けるなど、地域の一員としての期待が大きい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内のグループホームと連携し、地域住民との交流や認知症の啓発活動に取り組んでいる。また、見学や中学校の福祉体験などを積極的に受け入れている。認知症サポーターのフォローアップ研修の受入も行っている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の内容によっては、現場職員も参加し、頂いた意見を現場につなげている。また、運営推進委員の方と協働して、防災訓練等に取り組んでいる。</p>	<p>2か月に1回の頻度で開催している。建物のオーナーをはじめ市の担当課職員、民生委員、市社協ケースワーカー、介護相談員、家族会OBなど10名前後のメンバーが参加している。事業所や地域の行事のことや消防訓練の合同開催の件など様々な話し合いが行われている。議事内容は主任会議等を通じて職員に伝達され、意見や要望で改善すべき点があれば話し合い、実践につなげている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>吹田市内のグループホーム部会に参加し、吹田市の担当者とも関係づくりに努めている。</p>	<p>市の事業者連絡会に参加し、現在はグループホーム特定施設部会の会長を務めている。年間10回程度の会議を市役所内で開催し、法人で開催する家族会等での意見を担当課に伝えている。この連絡会のメンバーの共同開催である介護フェアにも積極的に協力をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>全体会議・ユニット会議などで、学習会を開催し、理解を深めている。また、主任会議を身体拘束廃止委員会に位置付け、身体拘束の状況について、議論を行っている。</p>	<p>グループホームと併設のデイサービスの職員が参加する全体会議などで身体拘束と虐待に関する学習会を年に2回程度実施している。また、スピーチロックなど日常の支援の中で何気なく起こるものについても主任等がその場で注意を与えるなどの関係を築いている。建物内は施錠はなく、利用者は好きな所へ行くことができるが、建物玄関の施錠は2点ボタン式となっている。中には巧みに開錠できる利用者もいるが、職員と一緒に屋外に出るなどの対応をしている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束の学習会と一緒に、虐待の内容も含めた学習を行っている(全体会議・ユニット会議)。また、社会情勢等の情報を主任会議を通じて、現場に発信するように努めている。</p>		

8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の状況により、必要な際は積極的に導入するよう配慮を行っている。また職員間でも制度についての知識向上を目的とした情報提供に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を用いて、家族が納得できるように、丁寧に説明を行っている。入居後も家族からの意見をしっかりと聞き取り、必要に応じて話し合いの場を設けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会に現場職員も参加し、家族の要求や要望に直接耳を傾けるようにしている。また、各ユニットの方針や取り組みを伝える様に努めている。</p>	<p>2か月に1回の頻度で家族会を開催している。事業所行事に併せて開催するなどの工夫により60%以上の家族参加がある。組織体制や主任交代、掃除の不行き届きなど様々な意見や苦言が寄せられている。また、日常の面会時の会話や個別に3ヶ月ごとのお便り(手紙)など日常的に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。意見等はユニット会議等で話し合い、運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月開催するユニット会議内で、職員の意見や提案の集約を行ない、必要に応じて主任会議内で管理者に報告を行う。</p>	<p>ホーム長は主任会議を通じて職員の状況報告を受け、年に1, 2回、職員との面談を行い、職員の意見等を聴き取っている。そうした意見に基づいて花火大会や寿司の日を採り入れたり、職員休憩室の確保などの改善を行ってきた。また、主任クラスまでのほとんどの職員が加入できる組合を設置しており、組合を通じて労働条件などの改善を行っている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の希望時には積極的に面談等を行ないながら、各職員との関係の構築を行い、職員の状況の把握を行ないながら関係づくりを行っている。休憩室の改善等のアンケートも実施している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ユニット会議内で、学習会を行いながら、専門性の向上に努めている。また、外部研修にも、積極的に派遣している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム部会の企画に参加することで、他事業所とのネットワークの構築が行っている。そのネットワークを利用した施設間の研修の企画や、交流を持つように努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人の状況・状態をアセスメントし、入居者に寄り添うことで不安や要望が言いやすい人間関係の構築に努めている。ご本人の想いが反映したケアプランの立案に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接時に職員が付き添い、家族の不安や要望を聞き取る機会を設けている。入居後は、家族と積極的に関わりを持つことで、意見が言いやすい関係の構築に努め、家族の想いも反映できているケアプランの立案を行っている。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントを行う中で、本人・家族が何を求めているのかを聞き出しながら、ケアプランへの反映を行っている。またリアルタイムに支援しなければいけない内容については、その都度ニーズに沿ったサービスの提供に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者には、常に生活の中で役割を持ってもらえるように、ユニット会議等で話し合いを行っている。生活者であり、自立した生活が営めるよう支援している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会等を積極的に受け入れ、面会時にはお茶を飲みながら、本人も交えて、普段の様子を伝えている。また、居室内で、本人と家族が過ごす時間も大切にしている。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前の馴染みの方の面会についても積極的に受け入れている。外出・外泊等の希望があった場合には、希望に応じた支援を行ない、馴染みの関係の継続に努めている。</p>	<p>利用者や家族から馴染みの場所や交友関係などの生活履歴等を聴き取っている。家族の協力でお墓参りや美容室、自宅に帰ることや、職員と一緒に年賀状や手紙を書き、交友関係が継続できるように支援している。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者間で交流できる環境づくりに配慮を行っている。特に食席については、入居者同士の関係性から考え、配慮するように努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した後も、家族が来所された際には、その後の状況報告をヒアリングしている。また、入院や転院した際には、出来る限り面会へ伺っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との信頼関係の構築に努め、日々の生活の中で入居者が発した希望や想いに耳を傾けている。意思疎通が困難な入居者には家族からの聞き取りや、ノンバーバルコミュニケーションを中心に感情や思いを想像しながらケアへと繋げている。	業務を優先することなく、利用者を中心としたケアを心掛け、利用者の思い等を日々の暮らしの中で聴き取っている。聴き取った思いは、個別ノート等に記載し、会議で話し合い、利用者の思いが反映できるように支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントを基に、生活の中から得た情報は記録へと残し職員間で共有している。本人から聞き取れなかったり、情報については家族の協力を得て、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、本人の出来る事、出来ない事の把握に努めている。また、職員同士の気づきを話し合い、ケアに活かしている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人の状況・ニーズ等を集約して、毎月のユニット会議に内で検討をおこない、モニタリングを実施している。ケアプランについては、担当者を中心に全職員の意見を集約し、モニタリングに基づいた計画をおこなっている。	介護計画書作成には計画作成担当者・看護師・介護職員が参加し、事前に聴き取った利用者や家族の意向を元に目標や優先順位を考え計画書を作成している。 基本的にモニタリングは6か月ごとに行っているが、心身の状況等に変化があれば、その都度、モニタリングを行い計画書を見直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアを各職員が介護記録へ記載し、職員間で情報の共有を図っている。入居者の状況や意向の把握に努め、介護記録の情報をもとに、再アセスメントしケアプランの作成を行っている。	

28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズについて、日々のかかわりの中から把握を行なっている。必要と思われるサービスがある場合には、家族と相談しながら柔軟にサービス利用に向けた検討を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との交流・高校の吹奏楽部との交流・介護相談員、傾聴ボランティア、歌体操、詩吟、貼り絵等のボランティアを積極的に受け入れ、入居者の暮らしを充実したものになるように連携して取り組んでいる。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護職と看護師との情報交換を密にし、医療との連携に努めている。また、必要に応じて家族と主治医との話し合いの場を設けることで、家族の要望等を主治医が把握できるように努めている。外部医療機関への希望があった場合、情報提供に努めている。	家族と通院する際は、利用者の心身の状況を記載した用紙を添え、医療機関へ情報提供をしている。また、通院内容は個人ファイル等に記入し職員間で情報の共有を図っている。 法人内に診療所があり、月2回の訪問診療を受けることができる。毎月、医療連携会議を行い、利用者の心身の状況について話し合っている。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎朝の申し送りや、必要時には随時報告を行い、意見交換している。また、毎月、医療連携会議を開催している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、ホームでの生活状況の提供を行い、スムーズな医療が受けられるよう努めている。また、入院時も出来る限り面会に伺い、医療機関から情報収集するよう努めている。		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針の説明を行い、ご家族には情報提供を行っている。職員は、『チェックポイント』用いて、学習に努めている。	入居時に「看取りの指針」を説明し同意を得ている。看取り期については、主治医の判断により、家族と面談を行い意向を確認している。「終末期における援助についての同意」で同意書を交わし、意向に沿ったケアが行えるように援助内容の見直しや医療従事者と連携を図り、看取り介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、事故救急対応の学習会を行い、職員が緊急時の初動動作が的確に行えるように努めている。各フロアにマニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、消防署及び、地域の消防団と連携して、避難訓練を行っている。水害については、独自でマニュアルを作成し、各フロアで保管している。	夜間想定も含め年2回の防災訓練を行っており、地域の消防団の参加もある。夜間緊急対応のフローチャートを各事務所に掲示すると共に、職員に周知している。 食料品や水は3日分で50食を備蓄しており、プロパンガス使用の発電機やヒーター・ライトなども用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『チェックポイント』を用いて、基本姿勢の理解を深めている。また、人権を尊重したケアが行えているか、自分たちのケアの振り返りを行っている。	職員は「個人情報保護と守秘義務について」のマニュアルや法人独自の「介護・看護のチェックポイント」を活用した勉強会や、外部の人権研修に毎年参加し、理解を深めている。 事業所は、かかわり方や発言が利用者本位となるように指導している。 個人ファイル等は鍵の付いた引き出しに保管している。	
----	----	---	--	--	--

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者との関わりの中で、受容と傾聴の姿勢で関わりをもつことを基本姿勢としている。入居者本人の自己決定が行えるように配慮している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のその日の状態把握に努め、その方に合った過ごし方するように努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の希望を、生活の中からの聞き取り、家族と相談を行ない購入等の支援を行っている。また、ケアを行なった際の整容にも配慮している。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者一人一人の嗜好の把握を行い、食べられないもの、アレルギー食等には配慮している。厨房の職員とも連携し代替食の提供等を行っている。 食事形態についても、入居者の状況把握を行ないながら看護師・主治医と連携して、適切な食事形態の変更等を行い、継続してユニット会議内において評価を行う。食事の準備から同食片付けまで、一緒に行うよう努めている。</p>	<p>メニューは本部の管理栄養士が作成し厨房で調理している。希望に沿った食事や行事食の提供をしたり、ミキサー食の見た目や食感にも工夫を施し食事が楽しめるように取り組んでいる。 食事の提供時間も特に定めておらず、利用者に合わせ柔軟に対応している。コップ、茶碗、箸は自前のものを用意し自宅での食生活に近いスタイルで食事を提供している。食事の準備、食事、片付けまで一緒に行っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎回の食事量・水分摂取量(水分量は必要な入居者のみ)を記録へ残すとともに、毎月の体重の増減を把握している。把握した情報は、看護師・主治医にも提供している。献立は、管理栄養士が立てている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>介助が必要な入居者には、職員が毎回口腔ケアを行ない保清を保つように配慮している。口腔ケアが難しい入居者には、歯科往診時に相談を行い、口腔ケアの方法について教えてもらい対応を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を使用しながら、排泄パターンの把握に努めている。座位姿勢が保てる方は、トイレでの排泄を目標に、適宜、声掛け誘導を行っている。</p>	<p>利用者は自室のトイレを使用している。介助を必要とする利用者には、排泄チェック表を利用し、排泄パターンや利用者のしぐさに注意を払い、声かけや誘導を行っている。 トイレで排泄ができることを第一と考え、できる限りトイレでの排泄を支援している。利用者が自立した排泄ができるようにパンツの種類なども工夫している。</p>	

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便コントロールの為に、排便状況の把握に努めている。適度な運動と併せて、水分量にも配慮している。医療と連携を行い、下剤の調整を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の希望があった際には、出来る限り入浴できるようにその都度対応を行っている。入居者の一人一人に合った声掛けを行なう事で、出来る限り混乱や拒否がないように配慮している。また、夜間入浴も実施している。</p>	<p>利用者の希望に沿って、時間や回数を調整している。最低でも週に2回は入浴ができるように支援を行っている。原則、同性介助とし毎回お湯を入れ替えている。ゆず湯など季節を感じられるような支援を提供している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その日の体調や状態に応じて、休息できる時間を設けている。夜間も室温調整・光・音にも配慮し、安眠できる環境をつくっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋をチェック表に同封し、いつでもチェックできるようにしている。症状に変化があった場合は、看護師にすぐに連絡を行い、連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴や趣味を活かした活動が行えるように支援している。役割を持って生活が出来るように配慮している。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>気候のいい日や季節に合った外出を計画して、入居者が外に出かけられるように努めている。たんぼぼの敷地内でも、季節や風を感じられるように、短時間でも外に出られるように努めている。</p>	<p>利用者の希望を聴き取り、家族も参加してのピクニックや万博公園への外出も行っている。施設の敷地内に庭があり季節を感じられ、自由に出入りができるように開放している。また、不定期だが茨木市の若園公園/バラ園にもユニット単位で外出している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の状態に合わせて、家族と相談し本人が金銭の管理を行なえるように配慮している。金銭管理が難しい入居者の買い物などについては、施設で立替を行い対応している。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者からニーズがあった場合は、その都度積極的に支援している。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールに入居者が集える環境をつくっています。また、共用部の清潔を保つように、ボランティアの協力も頂きながら、職員が毎日清掃を行っています。季節感が感じれる装飾も入居者と共に作成している。</p>	<p>各ユニットのエレベーター前ロビーには採光の良い大きなガラス窓があり、利用者が作成した四季に合った作品を飾っている。食堂兼リビングにはテーブルや椅子、ソファや本棚があり利用者が自由にくつろげる環境作りをしている。現在、喫煙者はいないが食堂兼リビングから直接出入りできるテラスでは喫煙も可能である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>生活されている入居者の状態に合わせて、その都度レイアウトを変更している。他者と関われる空間、一人で過ごしたい空間と配慮を行っている。</p>	/	/

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人の意向を聞きながら、家族と相談し、自由に使用して頂いている。入居前から使用していた家具等、可能な限り持ち込んで頂き、出来る限り馴染みのある空間をつくるように努めている。	各居室にはトイレ、洗面台、エアコンが備え付けてある。特に持ち込む物に制限はなく、各利用者は好みのカーテンや馴染みの家具等を持ち込んでいる。床に絨毯を敷きそこでは土足禁止とし、自宅の部屋と同じ様に工夫している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるように、家具の配置やリビングの位置等には配慮を行ない、必要に応じて介助バー等の安全対策を講じて、自立した生活が送れるように配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない